

メディアケア・フォー・オールを めざす取り組み

——DSAの『組織化ガイド』からの抜粋2——

2019年10月

目次

- *組織化とリーダーの育成 [第2章]
- *メディアケア・フォー・オールの戸別訪問を実行する [第3章]
- *【付録】
 1. [誓いのシート]
 2. [連絡シート]
 3. [語りかけの概要]
 4. [語りかけ]
 5. [チーム・リーダーのトレーニング計画]

編集・発行 民主主義的社会主义運動 (MDS) 理論政策委員会

*この『翻訳資料』は、MDSのホームページ (<http://www.mdsweb.jp/>) から無料でダウンロードすることができます。

【訳者まえがき】

以下に掲載するのは、アメリカ民主主義的社会主義者（DSA）が2018年1月に発行した、「メディケア・フォー・オール」（すべての人のための医療保険制度）の構想を米国市民のあいだに広めるキャンペーン用の『組織化ガイド』のうち、第2章、第3章、付録を翻訳したものである。

メディケア・フォー・オールがDSAの社会主義的変革戦略にとって有する意義を述べた『組織化ガイド』の第1章は、この『翻訳資料 グローバル・トレンド』No.6（「社会主義とメディケア・フォー・オール」）として翻訳し、2019年9月に公表しておいた。今回ここに新たに翻訳した同ガイドの第2章は、運動の組織化とリーダーの育成に関する留意点を述べたものであり、第3章は、メディケア・フォー・オールのための戸別訪問活動の仕方を説いている。そして、5点の【付録】は、第2章と第3章の内容を補足するとともに、実際のキャンペーン活動において用いられることを想定した資料となっている。第3章はすでにMDSによって翻訳され、2019年8月からは訳文がパンフレットの形で頒布されているが、これのより広い普及と活用を願い、このたび『翻訳資料 グローバル・トレンド』としても発行することにした。

なお、DSAのホームページに掲載されているこの『組織化ガイド』の原題は、Launching a Medicare for All Campaign: A DSA Organizing Guide である。

第2章 組織化とリーダーの育成

「組織化」とは何か？

組織化という語は、異なる人たちにとって多くの異なる意味をもっている。横断幕を張って公園を占拠することを組織化に結びつける人たちもいる。できるかぎり多くの人びとをデモ行進や抗議行動に動員することだと考える人たちもいる。また、ドアをノックして署名を集めることだと信じている人たちもいる。これらの戦術は成功する組織化戦略の一部にはなりえるが、その一方で、それらのすべてはもっと基本的な或る事柄を指し示している。それはすなわち、ますます多くの数の勤労者を引き入れ、階級闘争の共有された目標と共有された展望を軸にして彼らを組織し、彼らを具体的な集団行動へと駆りたてることのできる、有能で信頼できる人びとが必要だということである。

私たちは組織化を、DSAの成員を増やし、共有された連帯意識をつくりあげ、互いを共通の目標に向かわせ、社会をより良くする力が自分たち自身にあるのだという意識を人びとにあたえ、労働者階級を資本との闘争——メディケア・フォー・オールの場合には民間の医療保険産業との闘争——へ導く事業であるとみなすことができる。

組織化は他の用語、すなわち動員という用語と対比することができる。もしも組織化がますます多くの一般の人びとを一つの勢力として一緒に行動するために集め、その能力を育てあげ、その力を系統的に伸ばすのだとすれば、動員（あるいは直接行動主義）は、短期間の活動に参加する政治的傾向をすでに有している

人びとを引き込むことである。動員は、ときにその参加人数や規模によって強い力をもっていると見える一方で、長期的な取り組みを持続させたり、真の社会的勢力の基盤に訴えたり、参加してくる人びとの能力を育てあげたりすることはほとんどない。

組織化とは、動員とは違って、普通は自分のことを政治的活動家だとは考えそうもない人びと、すなわち政治とは選挙の投票だけだと考えていたかもしれない人びとを引き込むことである。組織化とは、自分たちの日々の生活に具体的に関係する問題に変化をもたらしうることを人びとに示し、人びとの能力と確信を育て、人びとが他の人を引き入れ育てる手助けをすることである。

私たちの目標がメディケア・フォー・オールを勝ち取り、社会変革をもたらす転換のために闘争を続けることのできる大衆的政治運動を築くことであるのなら、組織化とは私たちが進むべき道である。DSA を拡大し、かつまた私たちの目標を大衆的な社会基盤のなかに埋め込むためには、そして私たち自身の内なる能力を強化するためには、私たちが実行するどの取り組みも、私たちが開催するどの行事も、そして私たちがかわすどの会話も、私たちの同志の能力と確信を引き込み、育てあげ、支援するものでなければならない。私たちの活動は、すでに政治的活動家であると自認している少数のグループの人たちのみを対象にしてはならない。それは、圧倒的多数の一般の労働者階級である人びとに照準を定めなければならない。これは、ドアノックか対話によって活性化することのできる社会的な基盤である。ドアノックや対話は、より良い社会を求める共有された闘いに参加できるし、そうしなければならないということを、労働者階級に示すのである。

大部分のオルガナイザーたちは、リーダーを育成し未組織の人びとを新しく迎えることが自分たちの目標だと見ている。にもかかわらず、残念ながら彼らがときにこの目標を優先しそこなうのは、それが簡単な仕事ではないからである。その結果として、活動が山積みの状況に陥って同じ個人がますます多くの仕事を引き受けるようになる。彼らは何百件もの電話をかけ、数えきれない取り組みを企画し、そして非常に急速に燃え尽きてしまう。

オルガナイザーがどれだけ成功したのかは、彼らが個人的に費やす時間の長さによって測られてはならない。それはむしろ、自らの組織化の活動をいっそう広げるためにオルガナイザーが連れてきて、育成し、教育し、支援することができる一般の人びとの人数によって測られなければならない。もちろん、経験豊かな社会主義者のオルガナイザーにはより適した仕事もある。すなわち、専門的知識や、打ち解けやすさや、代表者になる能力を必要とする仕事である。それにもかかわらず、どの仕事でもあなた個人だけで行なえば、リーダーの育成の機会を失い、成員が組織されないで放置され、私たちの集団的事業にとって潜在的価値のある時間を失うのだということを肝に銘じよう。

良いオルガナイザーの資質

良いオルガナイザーとはカリスマ性をもち、社交的で、人前で話すのがうまい人だと信じている人が多い。これらの資質はオルガナイザーとしての個人の利点ではあるかもしれないが、2つの単純な資質がオルガナイザーとしての成功にとって不可欠である。それはすなわち、①責任感と、②探求心である。

これらの特質の一方はもっているが残りの一方が欠けている人びとは、お粗末なリーダーにしかならない。2つの資質が組み合わされることが絶対に必要である。ある人が社会主義のための闘いに貢献していて、たとえそれが電話かけやお菓子を買ってきたりするようない見つまらない仕事であっても、つねに活動することをいとわないのであれば、かつまた探求心をもって絶えず積極的に行動に取り組んでいて、質問を発し、間違いから学んでいるのであれば、彼らは素晴らしいオルガナイザーになることができる。

あなた自身のメディケア・フォー・オールの運動で誰がリーダーなのかを把握しようとするときに、自分がリーダーだと自認している人たちは必ずしも実際のリーダーではないということを肝に銘じよう。リーダーが責任感と探求心を示すのは、言葉ではなく活動のなかにおいてなのだ。

組織化のサイクル

或る人のリーダーとしての能力は、経験を通じてのみ明らかにすることができる。だから、オルガナイザーとして私たちがもつ最大の道具は、私たちの大部分がおそらく自然にやっている単純な過程をくり返すことである。「組織化のサイクル」と呼ぶことができるものには、次の4つの単純なステップが存在する。

- 1) 要請をする
- 2) 支援を組み入れる
- 3) 報告を受ける
- 4) くり返す

1) 要請をする

理想を言えば、あなたは対一の会話を誰かとしたあとに組織化のサイクルを始めるべきであり、そこで信頼関係を発展させ、彼らの個人の利益、すなわちメディケア・フォー・オールを勝ち取る闘いにおける彼ら個人の利害関係が何であるかを学ぶのである。しかし、これが必ずしもつねに可能であるとは限らないのは、まさに出会ったとたん突然、その人に要請をしなければならないかもしれないからだ。

ひとたびあなたが或る人への要請を用意してサイクルを始めれば、以下のことを肝に銘じるべきである。

- ・相手がうまく話し終えられると思ったときにだけ、その人に要請をする。
- ・要請は、いったんしたら決して取り消してはならない。
- ・あなたがそこに来ているのは支援するためであり、相手は必要があればあなたに支援を求めて連絡できるのだと確実にその人に知ってもらう。

あなたはつねに、その人にとって適切な要請をするように努めなければならない。「この取り組みに来てください」といった単純な要請もあるだろう。「今度の行事を取り組みましょう」といった、もっと関わりが深く複雑なものもあるだろう。

2) 支援を組み入れる

深い関わりをそれほど要求しない取り組みに関しては、適切ならば中間的な助言を残すだけで済ますこと

ができる（たとえば、あなたは、「1巡目のあとに電話を取って、いつでも2巡目の電話をする準備があることを相手に伝えよう」と言うことができる）。彼らがさらなる支援を必要としているのなら、問題に遭遇した際に彼らは連絡をしてくるに違いない。

より関わりが深い取り組みのためには、その人を支援するのに少し踏み込んで、彼が成功できるようにする必要があるだろう。その人と協力して目的と予定の合意を取ろう。あなたは要請をしたあと、そうした合意をただちに取りるか、あるいはもしも時間が許さないならば、支援ができるように別途に会う予定を取ろう。

A. 目標を決める

- ・取り組みを正確に説明し、それを理解できたかどうかを聞こう。理解していないのなら明快に説明しよう。
- ・その取り組みの目標を彼らがどう考えているのかを聞こう。可能なかぎり多数の関連する目標を彼らに投げかけ、あなたがいただいているどんな提案も共有しよう。
- ・ひとたびあなたがすべての目標を述べたら、相手があなたと同じ目標をもっていることを知るためにその人に復唱してもらおう。

B. 予定表を決める

- ・取り組みをやり通すのに必要なあらゆる仕事を明確に述べた計画の詳細な予定表を決めよう。冗長にならないように、できるかぎり箇条書き風にまとめよう。
- ・大きな行事や目標をめざす取り組みでは、最後の日程と仕事から時間をさかのぼって予定表を作り始めると、助けになる。たとえば、1月1日に電話リストを完成することを計画したのなら、「1月1日に電話リストを完成する」を最後の項目に掲げ、「行動予定を作る」とか「電話番号リストを配る」といったように、成功させるために事前にやっておく必要があるすべてのことを予定表に書きとめよう。
- ・いったん仕事のすべてをリストに挙げたら、それらの仕事を日時順に並べ、ふたたび時間をさかのぼっていき、各仕事の締め切りを決めよう。そのうえで、（もしも多くの人びとがその取り組みで活動しているのなら）各仕事をひとりの人に割り当てよう。
- ・最後に、とくに重要な締め切りの前には、あなたが作成した予定表に点検の日時を記載しよう。そうすれば、人びとはあなたが点検をしてくれることを期待するだろうし、あなたは微細な管理をしなくてもすべてが軌道に乗っていることを確認できる。

3) 報告を受ける

あなたの目標は、あなたが一緒に活動しているどの人からも、彼らが引き受けているあらゆる取り組みや仕事のあとにそれらの報告を受けるということではなければならない。これは必ずしもつねに可能ではないかもしれないが、報告を受けることは、あなたが取り組んできた仕事の多くが実を結ぶ場である。その取り組みがどのように進んだのかを相手が最後まで話す時間を確保するなら、成功するリーダーの2つの中心的な特質をその人が体現しているのかどうかや、取り組みの過程がどのように進んだのかや、何が学ばれたのかや、次回の適切な要請はどのようなものであるかということ、あなたが見極めるうえで助けとなる貴重な情報をもたらすだろう。

- ・取り組みがひとたび完了したなら、それに参加したすべての人と会話の約束を取り、うまくいったことは

何か、そして人びとが次回にどんな違ったことをやりたいと思っているのかについて、話ができるようにしておこう。

- ・話の相手が行動への関心または探求心をもっているという兆候に、特別の注意を払おう。彼らは多数の良い質問をしているだろうか。彼らは、取り組みの過程において自分が犯した失敗や解決された問題から教訓を学んだのだろうか。彼らは、新しい具体的な計画に熱心に取り組んでくれそうだろうか。

4) くり返す

可能なかぎり多くの人びとと、上記のステップ1) から3) までをくり返そう。あなたの目標はつねに、①リーダーを見つけて／試すことと、②組織のために最も重要な活動をやり遂げることでなければならない。

潜在的なリーダーが要請に応えることに成功したら、あなたが課した要請の責任の水準や難易度を高めることができる。たとえば、或る人は戸別訪問者として活動を始め、戸別訪問のチーム・リーダーになるよう要請され、チーム・リーダーとしての力量を示したあとには、訓練や戸別訪問や教育的な行事などの組織化といった活動を指導するように要請されるかもしれない。つねに考えておかなければならないのは、どのような水準の要請がその時点でその人びとにとって妥当なのかであり、彼らの能力や技能や専門知識を考慮することであり、彼らをリーダーとして育てあげるというあなたの目標である。

そして、私たちは自分自身と他の人たちを有能な社会主義のオルガナイザーへと育成しつづけたいので、リーダーの育成をつねに政治教育と組み合わせることが重要である。あなたのリーダーたちを励まして、文献読書会や社会主義夜間学校の授業に出席させよう。彼らが出席したら、組織化の活動についての会話に入る前に、それらの学習がどうであったかを尋ねよう。メディアケア・フォー・オールについての社会主義的な文献を共有し、それらについてどう思ったかを彼らに聞こう。オルガナイザーの毎日の活動を資本主義に対するより大きな批判へと結びつけることによって、彼らは組織化の活動をより広範な反資本主義の闘争の枠組みのなかで考えることを学ぶだろう。

他の人たちを育成するリーダーを教育する

上記のもろもろのステップを適用すれば、人びとは社会主義をめざす私たちの闘いに確実に参加し、集団の必要とするものを自分自身の必要よりも進んで優先するようになるだろう。あなたが試すことによってこれらの人びとの存在が明らかになったとき、あなたが自分の精力をこれらの人びとに集中し、とくに彼らが他の人たちを育てあげる手助けをしてあげることが不可欠である。以下にその方法を記す。

A. あなたのリーダーたちの1人に近づいて、他のリーダーを育てあげるうえで優れた手腕をその人がもっているとあなたが考えている理由を告げよう。その方法を学ぶためにあなたとともに活動したいかどうかを彼らに尋ねよう。彼らがイエスと言ったら、会議を設定しよう。

B. その会議のなかで、

- ・この文書の上記の内容を詳しく検討して、そこにふくまれているいくつかのステップを例示するために可能なかぎりあなた自身の経験を活用し、それらのステップが何であり、なぜ重要なのかを彼らに確実に

理解してもらうために、それらについてどんな感想をいただいたかを言ってほしいと要請しよう。

- ・組織化の過程で出会った人びとのなかで彼らが試し育てあげたいと思っている人たちについて、彼らに語らせよう。その後、彼らが見いだした人たちとの会合の場を設けるよう、彼らに勧めよう。
- ・あなたたち2人のくり返しの会議を（1 - 2週間ごとに）設定し、その間にあなたはリーダー育成の活動について話し、起こる問題を解決し、そして彼らが育てている人たちのための次なるステップについて決定しよう。

この過程全体を通じて、確実に支援を提供するとともに、必要なときには支援を要請するようにとあなたのリーダーに勧めよう。

リーダー育成エンジン

新しい人をリーダーへと育てあげていく各人に見合った道筋を練りあげるのは、きわめて大きな労力を要する過程であり、あなたの仕事はつねに、可能なかぎり多くの人たちのためにこの過程を促進しうるシステムを立案することから利益を得るだろう。私たちはこのようなシステムをリーダー育成エンジンと呼ぶことができる。

これは、反復が可能な大衆の組織化のプログラムであり、政治経験も組織化の経験もまったくもない多くの人びとを引き入れ、そうしたすべての人びとの組織化の能力と政治的確信を拡大し、傑出した人たちをオルガナイザーとして見だし育てあげることができる。言い換えれば、リーダー育成エンジンとは、新しい人たちを育てあげる際にオルガナイザーに要求される多くの知的労働を整理し、リーダー育成に関する上記のステップのすべてを体系化するための手段なのである。育成過程を体系化することによって、オルガナイザーはもはや、「次の要請は何か？」とか、「それをやり遂げるためにその人をどう支援するのか？」を考える必要がなくなるのである。

ここでの良い事例は、オルガナイザーと戸別訪問のチーム・リーダーと戸別訪問者で構成される戸別訪問計画である。オルガナイザーとは、取り組み全体をまとめ、チーム・リーダーを教育し、活動する際に彼らを支援する人びとのことである。チーム・リーダーは、戸別訪問者を募集し、教育し、支援することに責任をもつ。そして、戸別訪問者はドアをノックすることに責任をもつ。

もう1つの良い事例は、よく似た役割によって組織される成員拡大運動である。たとえば、あなたが支部のあらゆる成員に電話をかけて任務を刷新してほしいと要請したいのなら、資料を作り、成員拡大の詳細な計画を立て、成員拡大の主要なリーダーを募集するのに責任をもつ、数名のオルガナイザーを見いだすことができるかもしれない。そうすれば、これらのチーム・リーダーは、電話リストを保持する任務を負い、新たな名簿への電話かけを行なう電話リスト作成担当者を募集するだろう。

このように編成されたチームは、以下の活動に取り組む。

- ・このチームは、難しさや責任の水準が異なるとはいえ、すべてが同時に多くの人びとによって担われうるような一連の役割を作り出す。あなたには1人か2人の成員拡大運動のオルガナイザーがいるだけでも、もっと多くの成員拡大チーム・リーダーとはるかに多くの電話リスト担当者を得ることができ

るかもしれない。

- ・この取り組みは、新しいオルガナイザーがあらゆるレベルで見いだされ、試され、育てあげられる機会を組み込んでいる。戸別訪問者は戸別訪問チームのリーダーと一人対一人の時間を得ることができ、リーダーたちの責任感と探求心について評価をもつことができる。オルガナイザーは戸別訪問チームのリーダーと同じことをすることができ、それぞれの役割には、次の戸別訪問でより中身のある役割を引き受けるよう要請するのにふさわしい人びとが見いだされるのである。言い換えれば、あなたが行なう戸別訪問のそれぞれで、戸別訪問チームのリーダーは将来の優れた戸別訪問チームのリーダーになるだろう人を見いだすであろうし、オルガナイザーは次の戸別訪問を組織することができる戸別訪問のチーム・リーダーを見いだすであろう。
- ・このチームは、明確に定められた責任と教育要件とをともなう一連のはっきりとした要請を備えている。つまり、15人の電話リスト担当者が成員拡大チームのリーダーになることは、1人の電話リスト担当者を教育してリーダーに育てることよりも大して多くない努力でできるのである。

以上の実例は特殊なものではあるが、これと同じ目的を達成するほかのすべての種類の組織化計画をあなたは立案することができる。必要とされる事柄よりもずっと多くのものを作り出す典型例だという点が、リーダー育成エンジンの最大の利点である。たとえば、戸別訪問チームのリーダーとして育成されている人たちはしばしば、資金集めのイベントの計画から電話リスト担当を担うことまで、他のあらゆる種類の取り組みにも喜んで参加し、別の重要な役割をも果たすのであり、それは組織の能力を劇的に増加させるのである。

リーダー育成エンジンは、オルガナイザーとリーダーをつくり出すことに加えて、より多くの活動的な成員をもつくり出す。メディケア・フォー・オールを要求する闘いに一般の人びとを引き込んで私たちの隊列を増やすことで初めて、私たちの健康と生活全体に対する資本の支配に挑戦することができる大衆運動を私たちは構築することができるのだ。

第3章 メディケア・フォー・オールの戸別訪問を実行する

なぜメディケア・フォー・オールのために戸別訪問をするのか？

戸別訪問は組織化の基礎的な技術である。それは、隣人や共闘者との必要な関係とともに DSA の支部の活動家の力量を築き上げる。私たちの隣人と話をするおかげで、私たちは抽象的な政治要求を取り上げて具体的な物質的関心事に変えることができるのであり、その結果、実際に大衆的な政治的基盤を築き上げる。資本に対する共有した闘いのなかで一般の人たちを結びつけることによって、メディケア・フォー・オールをめざす闘いは労働者階級を団結させ、勝ちとることが可能な要求となる。

DSA の戸別訪問の目標は高い価値をもつ会話をするものでなければならない。言い換えれば、私たちが欲しているのは、人びとに普遍的な医療保険を支持する署名をしてもらうことだけではない——私たちは人びとに、現在の保険制度が不十分であることや、それがどんなに自分自身に影響をあたえているのか、メディケア・フォー・オールを要求する闘いにどうやって参加できそうかということ、真剣に考えてほしいのだ。

それを実行するために、私たちは次のドアにあわてて移ることはできない。したがって、2時間の地域の戸別訪問で、戸別訪問のペアに各々25 - 50 軒のドアをノックさせることを目標にしよう。受け持ち地域を適切に分けなければならないのは、あなたの戸別訪問チームが、必要以上に多くの地域を回らなければならないというプレッシャーを感じないようにするためである。

孤立感を感じるのを避け連帯を築くためには、戸別訪問を1人ではなくペアを組んでやろうというのは実際良い考えだ。2人組体制は、経験のない戸別訪問者がより経験を積んだ訪問者と2人組を組めるときに、新しい人たちを取り組みの舞台に上げるためにとくに役に立つ。

次に述べるのは戸別訪問の計画に関係することの短い要約である。より詳しくは、付録の文書（メディケア・フォー・オールの電話かけ台本や、チーム・リーダーのトレーニング計画や、戸別訪問の計画や、メディケア・フォー・オールの語りかけや、メディケア・フォー・オールの語りかけの概要など）で見ることができるが、あなたの戸別訪問活動を準備し運営するうえでのあらゆる支援を受けるために DSA の全国組織チーム（m4a@dsausa.org）にも連絡を取るべきである。

戸別訪問の運営の方法

1. 活動場所と時間を設定しよう（戸別訪問の少なくとも4週間前）

第1回戸別訪問の日にあなたの本部として役に立つ活動場所を見つけよう。ここは語りかけの訓練と結果の聞き取りをして、戸別訪問中に何でも必要なことがあったら人を送ることができる場所である。時間に関しては、土曜日と日曜日の午後12時と4時のあいだが一番うまくいきやすい。天気が良いという条件があ

れば、公園は、自由がきいて近隣地域の真ん中にあることが多いという両方の理由から、良い集合場所になることができる。

2. 役割を割り当てよう（第1回戸別訪問の日程／時間を設定し次第）

戸別訪問には多種多様で流動的な活動分野があるので、あなたは或る仕事を担当する特定の人たちが欲しくなるだろう。多種多様な責任を引き受けてくれそうな人たちもいるだろうし、チーム・リーダーでこの責任を引き受けられそうな人もいるだろう。ともかく、どの役割にもその名前が確実にあるようにしたい。これらの役割は以下のものをふくむ。

- ・全体実行責任者：活動場所探しと、1日の詳細な計画と、以下に掲げるすべての活動の調整に責任をもつ。
- ・通信責任者：電話かけとメディア／ソーシャル・メディアによる宣伝に責任をもつ。
- ・語りかけのトレーナー：戸別訪問開始にあたっての1時間半の歓迎と語りかけのトレーニングの運営に責任をもつ。
- ・用具の調整者：戸別訪問者の署名板の準備に責任をもつ。
- ・受け持ち区域責任者：必要数の受け持ち区域を設定し、それを区切って〔地図を〕印刷する責任をもつ。
- ・食べ物／水の責任者：戸別訪問の日の食べ物／水の準備に責任をもつ。
- ・データ管理者：戸別訪問後のデータ入力と管理に責任をもつ。

3. 会員に対する電話かけをしよう（第1回戸別訪問の日時を設定し次第）

あなたはこれを交代で、多くの人がそれぞれの自由時間を使って、あるいは一斉に、メディケア・フォー・オールのための電話かけ台本を用いることで実行できる。この電話かけのときにあなたは次の2つの要請をしなければならない：①第1回戸別訪問に来てほしい、②他の人たちにも教えられるように戸別訪問のやり方を学んでほしい。あなたは2番目の要請を誰に対してもするのではなく、真剣な関心を示しているか、以前に経験をしているか、良いだろうと思う人たちに行なわなければならない。デジタル通信と同様に、戸別訪問に来るようにと要請するに先立ち、米国の非人間的な医療制度に対する解決策としてメディケア・フォー・オールを提示することで確実にリードしよう。

4. 第1回戸別訪問をあなたのお知らせリストとソーシャル・メディアを使って大々的に宣伝しよう（第1回戸別訪問の日時を設定し次第）

5. 試験的な戸別訪問を実施してチーム・リーダーを決めよう（第1回戸別訪問の2 - 3週間前）

充実した戸別訪問を成功させるためには、他の成員を支援できるトレーニングを積んだ活動家のチームが必要となるだろう。試験的な戸別訪問はこの人たちを決めて、現場で経験をあたえて、新しい戸別訪問の計画についての興奮をつくりあげることが意図したものである。あなたは第1回戸別訪問のためにする試験的戸別訪問の全体の準備をする必要があるが、それはより小さい規模のものである：すなわち、集合地点／場

所を設定し、署名版と用具を準備（以下のステップ7番）し、試験的戸別訪問者が回る小さな区域を切り出し（ステップ8番）、食べ物の準備をし（ステップ9番）、そして戸別訪問をする（ステップ10番）のである。あなたはこの時点ではメディアの大宣伝を気にかける必要はない。試験的戸別訪問の目的は、より大規模な戸別訪問に向けた試験運営をすることで実施計画上の不備を練り直すことにあるが、より重要なのは第1回戸別訪問のチーム・リーダーを決めることなので、立ち上がる人びとを慎重に探そう。リーダーになりそうな人たちを探し、できるかぎり多くの人たちと話をし、報告のあいだよく注意を払おう（第2章「組織化とリーダーの育成」参照）。

6. チーム・リーダー育成の組織化（試験的戸別訪問のあと）

チーム・リーダーの育成は「チーム・リーダーのトレーニング計画」に従って運営できるが、これは試験的戸別訪問であなたが選んだ人たちのためである。ここでのあなたの目標は、チーム・リーダーが語りかけを気持ちよくできるようにし、第1回の戸別訪問の詳細な計画とそのあとの自分たちの責任が何であるのかを彼らが確実に理解できるようにすることである。

7. 署名版／ペンを買い、戸別訪問者の署名板のためのすべての用具を印刷／点検しよう（戸別訪問の2、3日前）

署名板／ペンがとてたたくさん必要になるのでまとめて買おう。試験的戸別訪問の2、3日前に戸別訪問者のために署名版を買って準備することが必要であり（ステップ5番）、これは第1回戸別訪問の2、3日前にもふたたび必要になる（ステップ10番）。どちらの戸別訪問のためにも、戸別訪問にどれくらいの数の人たちが姿を見せるのか一番良い推定をして、各戸別訪問者に1つの署名版をもたせるように努めよう。各署名板には、シートが以下の順番で入っている。

- 1) 誓いのシート【付録】1】
- 2) 連絡シート【付録】2】
- 3) 語りかけ【付録】4】
- 4) 語りかけの概要【付録】3】
- 5) メディケア・フォー・オールのよくある質問
- 6) 置いていくチラシ

この戸別訪問の用具のすべては、私たちのウェブサイト（medicareforall.dsausa.org）から簡単に編集できる形式で取り出すことができる。あなた自身の支部の必要に合わせて自由に修正していただきたい。

8. 地域割りをする（戸別訪問の2、3日前）

あなたは、戸別訪問の各ペアが2時間で25 - 50軒のドアをノックすると予測しなければならない。チーム・リーダー1人に5組の戸別訪問のペアを割り当てるとすると、チーム・リーダー1人当たり125 - 250の家屋／アパートメントをふくむ受け持ち区域を用意しなければならない。グーグルの「マイ・マップス」

がそれをするのに役立つ手段であり、そのおかげで自分がどこにいたのかを追跡しつづけることができる。チーム・リーダーが自分の戸別訪問者に地図を出せるようにそれぞれの受け持ち区域をプリントアウトしておくなら（建物を見るために画像拡大すると助けになる）、チーム・リーダーは特定の街路でも戸別訪問者を道案内することができる。戸別訪問を続けていく場所を選ぶときには、人口動態を意識しよう。私たちは労働者階級の政治運動を作ろうとしているのであり、それは私たちが労働者階級の居住地域で人びとに語りかけなければならないということの意味する。私たちの M4A [メディケア・フォー・オール] 担当地域割りガイドとそれに付属した担当地域割りトレーニング・ビデオはこの過程をずっとあなたに歩ませる助けになるだろう。

9. 食べ物を調達する（戸別訪問の2、3日前）

あなたは戸別訪問者のためにお菓子と水を手元にもちたいだろう。誰でもお菓子は好きだ。

10. 戸別訪問！

おおよそ4時間の戸別訪問は以下の時間の区切りで構成される。より詳しくは「戸別訪問の実行」を参照。

A. 1時間 25分：ようこそ語りかけのトレーニングへ。 2人の個人が語りかけトレーニングを指導する担当をしなければならず、それは以下の内容をふくまなければならない。

- ・ 歓迎と DSA/社会主義とは何か？（10分）
- ・ メディケア・フォー・オールの紹介と働きかけつづけることがなぜ重要なのか（10分）
- ・ 語りかけの説明と語りかけの概要と役割を演じる例（15分）
- ・ 指定された戸別訪問のグループに分かれて役割を演じる練習（25分）
- ・ 報告をして担当地域に出発する（15分）

B. 2時間：戸別訪問！

問題が起きた場合に電話をかけてもらうために、戸別訪問者にはあなたの電話番号を必ず教えておこう。

C. 30分：報告をする

戸別訪問者は戻って来ると、うまくいったこととうまくいかなかったことについて、とくに感動した出会いと難しかった出会いなどについて話す。おやつや水や用具などの費用に充てる寄付を集めるために帽子を回し、余ったお金はすべてあなたの DSA 支部に行くと言明しよう。

11. データ入力（戸別訪問の2、3日後）

後付けの連絡は力をつけるために欠くことができないし、新たな良く整備されたデータがあるかどうかにかかっている。あなたはつねに、a) 戸別訪問者は誰であり、b) 戸別訪問を受けた人たちのなかで誰があなたの運動を支持しているのかを知りたいだろう。

戸別訪問者のサイン：人びとが戸別訪問のところに到着したら、サインしてもらおう。グーグル・フォームがここでは実際に役に立つ（必ずEメールと電話番号をもらおう）。

戸別訪問者のデータの収集

誓約シート: 戸別訪問者が外に出てドアをノックするとき、地域住民に誓いの項目へ彼ら自身の情報を書いてもらわなければならない。署名は重要性を増し、大量の誓いは組織化の力量を示すことができる。戸別訪問のあとも彼らをつかんで離さないでおこう。

連絡シート: 戸別訪問のあいだ、戸別訪問者は誓いのシートから連絡シートへと情報を書き写さなければならない。やり取りについて注意を払い、医療についてのどんな良い話も記録しよう。

統合と整理: 戸別訪問のあと、チーム・リーダーは自分のチームの訪問シートのすべてのデータをデジタル・フォーマットに統合し整理しなければならない。グーグル・シートはこのステップでは実際によく働いている。Eメール／電話かけリストを簡単に作りはじめられるように、この点でのデータの集中を確実にしよう。

戸別訪問活動のためにあなたが使うことのできるデータ・シートをふくむデータ整理の仕方の詳細は、私たちのウェブサイト (medicareforall.dsausa.org) で閲覧することができる。

12. 報告（戸別訪問の2、3日後）

チーム・リーダーたちと報告をして第1回戸別訪問を振り返り、次の戸別訪問を計画しよう。報告者はまた、何がうまくいって何がうまくいかなかったかを確認し、それによって将来の行動の計画を立てなければならない。チーム・リーダーは、新たな戸別訪問活動のリーダーの役割にふさわしそうな人を少なくとも2人確認していなければならない。これは次回の周期にあなたの力量を増大させるだろう。

13. くり返そう！

【付 録】

1. [誓いのシート]

民主主義的社会主義者はメディケア・フォー・オールを支持する

米国の何百万人もの人たちは、医療をまったく受けていません。

保険に加入している人たちは、医療費が確実に増えていて医療が減少していくのを見てきました。増額された保険料は、実際の治療や医療サービスよりも、何百万ドルもの CEO の報酬や、弁護士や、ロビーストや、広告に費やされています。

単一の医療費負担者制度であるメディケア・フォー・オールこそが、賢明な回答です。これには、保険免責条項も窓口自己負担もありません。あなたは自分の選択によって医者を訪ねることができます。歯科も、眼科も、心療内科も、薬剤もすべてふくみます。

労働者階級の人びとの健康を、いまこそ保険会社の利益よりも優先するべきです。私は DSA とともにメディケア・フォー・オールを要求して闘うことを誓います。

(書き込み欄)

印刷し公表してよい名前 _____ Eメール _____

住所 _____ 市 _____ 州 _____ 郵便番号 _____ 電話 _____

ボランティアを希望しますか？ () DSA に興味がありますか？ ()

2. [連絡シート]

取り組み/日 _____ 戸別訪問者の名前 _____ 訪問地域 番号 _____

名前 _____ 住所 _____

Eメール _____ 電話 _____

誓いに署名 _____ DSA に関心がある _____ ボランティアに関心がある _____

良い課題の話があった／課題： _____

電話連絡の状態（以下のコードから選ぶ） _____

AN＝返答あり MI＝意味のある対話 NI＝関心なし RE＝拒否

3. [語りかけの概要]

メディケア・フォー・オールの5原則

1. 単一の公的社会プログラム：諸制度の寄せ集めではない
2. 包括的な適用：医療専門家を必要とするすべてのサービスに適用される
3. サービスを受ける際に無料：支払い能力を基にした税金負担によって資金を供給し、費用を患者に転嫁しない：無料で、窓口自己負担がなく、共同負担がない
4. 米国のすべての住民にあまねく適用する：米国市民以外の住民をふくむ
5. 民間医療保険産業に現在雇用されている人びとに対する職業訓練／再就職あっせん支援

出だし あなたが話すのが 70%、相手が話すのが 30%

目標：その人が個人的な細かなことを共有しても安心だと感じられる心地よい環境を作るため。もしもあなたがその地域に住んでいたなら、そのことをはっきり伝える：「同じブロックの少し先の近所の者です...」。

中心となる話 あなたが話すのが 30%、相手が話すのが 70%

目標：その問題がその人自身の生活にどんな影響をあたえるかを知り、関わらざるをえない理由を細かく明らかにする（つまり個人の利害を探す）。

主張をするのを避けて、質問をして積極的に相手の話を聞くことを実行して、その人がつらい話や事実や経験を共有したときには共感を示そう。

語り込む あなたが話すのが 50%、相手が 50%話す

目標：敵を明確にし、苦しみは他の人や企業や政治家によって生み出されていることをその人に明らかにする——それがどんなに不正なことであり、関わらざるをえないのだということを示すために。

→「あなたは、保険会社が闘いもなしに私たちにメディケア・フォー・オールを勝ち取らせてくれるだろうと思いますか」といった誘導質問をするのは、恩着せがましく感じられ、不愉快であるかもしれない。絶

対に必要なのはしかし、人びとが自らの言葉でこれらの質問に答えることである。

→ 大部分は、そのような質問をされたらその答えはどんなに明白なものかわかるだろうし、あなたが「その通りです！ 彼らはよりいっそう稼いでいるのです！」といった答えで返したら、人びとはあなたが同じ側にいるのだと感じはじめるだろう。

展望 あなたが 70%話し、相手が 30%話す

目標：自らが参加していることをその人が想像できるような社会変革への明確な道筋を明確にする。

あなたは、運動や組織に参加することは個人の生活を改善するだけではなくて、いかに面白く、わくわくする体験であるかを示すように努めなければならない。

要請 あなたが 70%話し、相手が 30%話す

目標：その人を次の一步へと進ませて、組織や運動にもっと参加するようにする。

要請の最も重要な部分は、要請を中心課題〔メディケア・フォー・オール〕へと結びつけることである。たとえば、「あなたのお嬢さんのぜんそくの治療薬に毎月 300 ドル払わなければならないようですが、それだけの金額を支払うのは厳しいようですね。もしもあなたのような人が参加しなければ、私たちはメディケア・フォー・オールを勝ち取ってあなたのお嬢さんのような人たちの命を救う医薬品を保証することは決してできないでしょう」。

→人びとに参加しようと要請することを恐れてはならない。あなたは何かを販売しているのではなく、機会を提供しているのだ。

→誰もが、どれほど参加したがっているのかを自ら答える機会をあたえられるべきなのだ。

4. [語りかけ]

出だし：やあ、私の名前は_____です。私がここに来たのは、すべての人のための無料の健康保険を作りたいからです。メディケア・フォー・オールを聞いたことはありますか？

よく知らない場合：メディケアは年配のアメリカ人に保障されている健康保険ですよね。メディケア・フォー・オールの制度は、すべてのアメリカの住民に健康保険を適用するべくこのメディケアを拡大し改善し、民間保険に取って代わり、窓口自己負担や保険料や保険免責条項を根絶するものであり、歯科や眼科や心療内科やそれ以外の全部に適用されます。

中心となる話

あなたのいまの健康保険をどう思いますか？ メディケア・フォー・オールは、あなたやあなたのお知り

合いの利益になるものに聞こえますか？ あなたは請求書の支払いに苦労されたことはありますか？ 経済的理由で治療を受けずに済まさなければならなかったことはありますか？

・不公平な扱いを話して来たら：あなたはそれが公平だと思いますか...？

・良い保険を受けていたら：あなたは雇用主があなたの保険契約のためにいくら支出しているかを知っていますか？ 私たちは、雇用主が保険に何万ドルも支払っているということを多くの皆さんから聞いています。メディケア・フォー・オールがあれば、そのお金をあなたの給与のほうに振り向けることができるのです。

積極的に聞き取り、医療制度にかかわるその人たちの経験をメディケア・フォー・オールの5つの原則のどれかあるいはすべてに結びつけよう。

語り込む

いままさにあなたが医療に支払う1ドルごとに、30セントが保険会社に行くことを知っていましたか？ 闘いをしないで、そんな会社が私たちにメディケア・フォー・オール制度のほうへ移行させてくれると思いますか？

...その通りです！ 保険産業はこれに反対して闘うために何億ドルも資金を出すでしょう...

展望

あなたと私だけで上院議員の事務所に行くとしたら、上院議員は耳を傾けると思いますか？ もちろん聞いてくれませんよ。私たちは2人だけなのですから。しかし、私たちが外に出てこのブロックで3人、次のブロックでさらに3人を集めていき、ついには集會に1万人を集めることができれば、そのときは政治家は私たちに耳を傾けると思いませんか？

...これこそ、あなたと私のような普通の人びとに語りかけるアメリカ民主主義的社会主義者（DSA）と一緒に私がここにきた理由なのです。私たちのうちの多くが参加したら、ドアをノックするために全米の何百万人もの人たちを集め、企業を打ち負かしてより良い社会を勝ち取るために必要な民衆の力を築き上げることができるのです。

要請

これはあなたが参加したいことに思えますか？

もしも **NO** なら：私たちのような人たちが参加する必要がある。医療にかかわる個人的な話を中心課題へと再度結びつける。

もしも **イエス** なら：以下の要請をやり切る。

1. [誓いの言葉に署名してもらおう] [メディケア・フォー・オール運動の公表のために]
2. [ボランティアに参加したいですか？] [戸別訪問に参加できそうかを尋ねる]
3. **DSA** に関心がありますか？ [もしも **DSA** が社会主義に関心を示したら]

5. [チーム・リーダーのトレーニング計画]

1. 戸別訪問課題の概観 (45分)

a) 戸別訪問の計画シートのリハーサルをして、チーム・リーダーに自分たちの任務の内容と、問題が起こったときに必要なことを明確に示す。

- スケジュール通りに進めることがいかに重要なかを強調する。

b) チーム・リーダー全員に、報告電話をかけてもらうことを告げる：戸別訪問ののち1週間以内に報告電話を行なう。この電話では以下のことを討議する。

- あなたの戸別訪問チームの報告の評価
- 戸別訪問であなたが認識した能力のあるリーダー
- 戸別訪問全体のプラス/増加面

2. 資材の全体を点検する

a) 戸別訪問用署名版パック（誓いのシート、連絡シート、語りかけ、語りかけ概要、よくある質問、置いていくシート）、チーム・リーダー・パック（戸別訪問計画、リーダーの設定の仕方、リーダーのチーム・シート）の資材全体を見て、区割りシートを手渡し見直す。

b) 誓いのシートについて...

- Eメールが鍵だ！ 署名をしたらEメールを確実に書き入れるようにしよう。
- 誓いの言葉の署名は全体の運動の連絡へと人びとを導き入れる。チェック欄はより特定した連絡へと導く。
 - DSAに関心がある→新メンバーの集会/ニュースレター
 - ボランティアに関心がある→運動のボランティアの機会

c) 連絡シートについて...

- 戸別訪問者はここで記録を取るが、ドアノックの相手にこれが見えるようにしてはならない。
- 良い医療の話の細部を記録する。
- その人にもう一度電話をしたら、有益な情報や重要な情報を記録する。

d) リーダーのチーム・シートについて

- チーム・リーダーは、戸別訪問者にこれを記入してもらい、必要な場合には現場から連絡を取れるようにする。
- チーム・シートは、誰がどの地域を受け持っているかを記載し、有能なリーダーについての全体的な記録にも用いられる。

3. 語りかけと語りかけの内容を振り返る (10 - 15分)

a) グループになぜ語りかけをするかを尋ね、誰かに答えるように要求する。

- あり得る答え：「語りかけは、人びとの関心をかきたて、個々人の状況にもとづいて参加させる、よく組み立てられた対話である」。
- b) 語りかけに習熟することがなぜ重要なのかをグループに質問する。
- あり得る答え：「語りかけを本当に良いものにすれば、ドアでの対話が落ち着いてできるようになり、良い質問や積極的な聞き取りに集中できる」。
- c) 語りかけのそれぞれの部分のリハーサルをして、ボランティアにその部分を語ってもらい、それがどんな働きかけに役に立つのか、そのうちで心にとどめておくべきものは何かを話すようにボランティアに求める。
- 抜けているところは丁寧に埋める。「まさにその通り！ もう一つ、覚えてくべき大事なことは...」。
- d) 中心項目の部分のあと、こう尋ねる：「私たちが『自己利益』と言ったときにそれが何を意味するかを、誰か説明できますか？」。
- 誰かに答えを要請して、中心課題に関する質問は相手の自己利益をいかに引き出すのか、それがいかに重要なのかを明らかにする。

4. 役割練習の例+報告 (35分)

5. ペアを組んで簡単な/適度な役割練習をする (30分)

- 何がうまくいったか？ 何がうまくいかなかったか？

6. Q & A (10分)